あっけし

暮らしイキイキ、
あなたと町の広報誌

令和２年（2020年）
3月号 No.873



厚岸町公式キャラクター
「うみえもん」

2月5日、友遊児童館でアイスキャンドルの点灯式が行われたでござる！この日は最高気温もマイナスのとても寒い日でござったよ。職員の合図で、色とりどりのキャンドルに灯をともしたでござる！きれいでござるな～♪

全国体力・運動能力等調査結果 ‥ P 2
地域おこし協力隊活動報告会 …… P 4
ズームアップ …… P 8
情報BOX …… P14
エゾシカ猟銃駆除を行います …… P22
暮らしのヒント「予定帳」 …… P23
クローズアップ・インスタグラム ‥ P24

厚岸っ子の体力の状況をお知らせします

町内の小学校５年生と中学校２年生を対象に１学期に実施した、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果をお知らせします。調査では、実技に関する調査（小学生８種目、中学生９種目）のほか、運動や生活習慣を捉えるための質問紙調査（アンケート）を行っています。この調査で把握できる体力・運動能力や運動習慣の状況は特定の一部分ですが、調査結果から学校教育活動の状況や児童生徒の体力の状況、傾向を捉えることで、今後の教育活動の改善を進めていきます。

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査の概要】

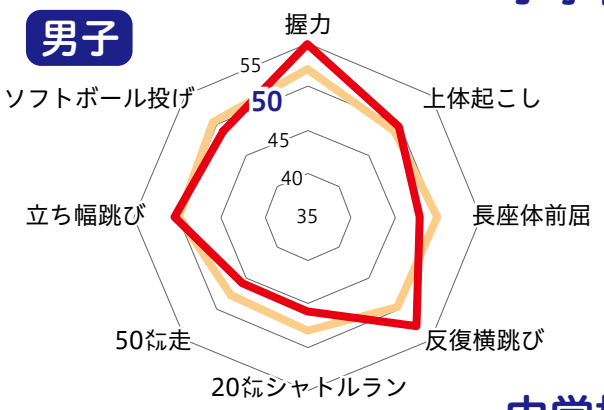
1. **調査期間**　令和元年　１学期間
2. **調査対象**　小学校５年生（全児童）…男子31人、女子30人
   中学校２年生（全生徒）…男子34人、女子43人
3. **調査内容**　（1）実技に関する調査
   握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20㍍シャトルラン、50㍍走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ（中学生はハンドボール）、持久走（中学生のみ）
   （2）質問紙調査
   運動習慣アンケート（運動習慣・生活習慣）

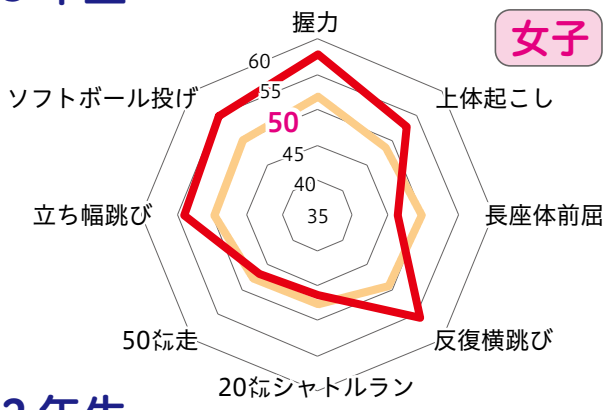


【調査結果（全国平均を50としたときの偏差値）】

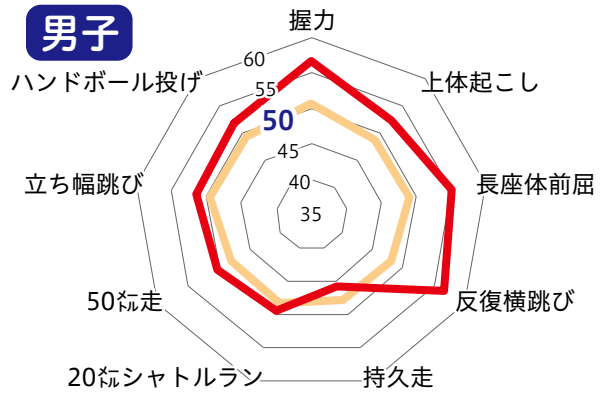
厚岸町　全道

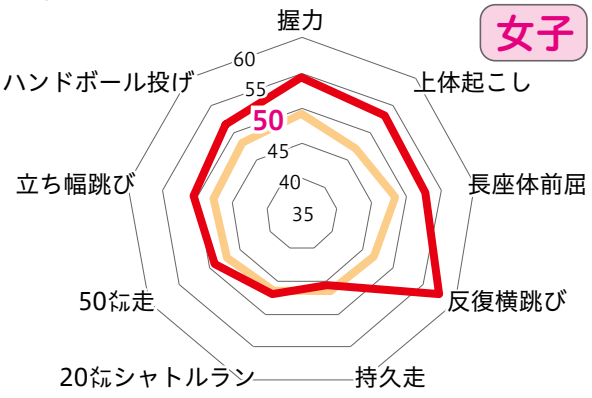
小学校５年生





中学校２年生



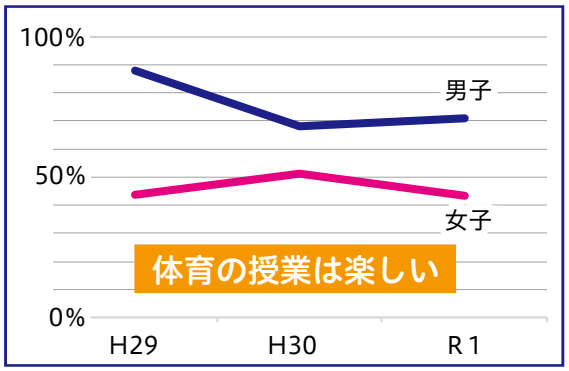


小学生　体力・運動習慣状況

女子の体力合計点は、全国平均を上回りましたが、男子の体力合計点は、全国平均を下回る結果となりました。

男子は、俊敏性を測る反復横跳びで全国平均を上回っていますが、持久力を測る20㍍シャトルランでは全国平均を下回っています。

女子は、８種目中５種目で全国平均を上回りました。特に握力は、今年も全国平均を上回っており、厚岸っ子の特徴的な傾向といえます。



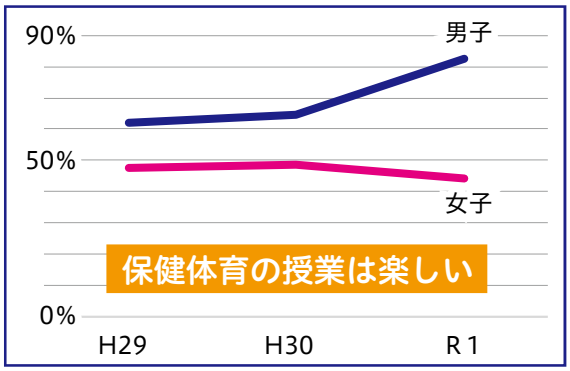
運動系の少年団活動やスポーツクラブで活動している人数が、調査対象人数中30％であり、調査開始以来、最も少ない状況となっています。

中学生　体力・運動習慣状況

体力合計点は、男女ともに全国平均を上回りました。

男子は、９種目中７種目で全国平均を上回りました。小学生の結果と同様に、反復横跳びは全国平均を上回っていますが、持久走は全国平均を下回っています。

女子は、９種目中６種目で全国平均を上回りました。男子の結果と同様に、反復横跳びは全国平均を上回っており、持久走は全国平均を下回っています。



『保健体育の授業は楽しい』という質問に対して、男子は86％、女子は100％『楽しい・やや楽しい』と回答しており、男女ともに肯定的な考えを持っている生徒が多い状況となっています。

『やった！』『できた！』を実感して体力・健康増進！

学校では

・安定した人間関係づくりに努めます
・体力を高める環境づくりを進めます

【授業では】

・運動量を確保し、年間を通した体力づくりを進めます
・楽しみながらも、運動量を保障した授業展開を工夫します
・適切な運動負荷のある種目を、積極的に取り入れます（中学校）

教育委員会では

・町内の体力・運動能力、運動習慣などの結果を分析し、成果や課題から改善策を提示します
・体力向上の研修機会を通し、授業力を高めます
・成長に必要な栄養摂取や望ましい生活リズム習慣を意識できる取り組みを進めます
・体育館やプールなど、町内の運動施設の積極的な活用を進めます

家庭では

・休日や長期休業中の過ごし方について、親子で話し合いましょう
・お手伝いなど、家庭での役割を持たせましょう
・テレビゲームや携帯電話などの情報端末機器利用のルールを家庭で決め、しっかり守らせましょう

●問い合わせ／教育委員会指導室（役場内）

厚岸町地域おこし協力隊

活動報告会

２月８日、町主催の『地域おこし協力隊活動報告会』が、厚岸情報館で行われ、29人が来場しました。
町の地域おこし協力隊員の６人が、この１年の活動を報告しました。

地域おこし協力隊について

●**制度概要**：都市地域から人口減少の進行が著しい地域に住民票を異動し、生活の拠点を移した人を、市町村が『地域おこし協力隊員』として委嘱。隊員は一定期間、地域ブランドや地場産品の開発・販売・ＰＲなどの『地域協力活動』を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組み。活動経費には、国の財政措置があり、身分は町の非常勤特別職員。

●**活動期間**：おおむね１年以上３年以下

【厚岸町における導入の効果】

地域おこし協力隊
①自身の経験・能力を活動に生かし、町内での起業・就職へ
②町内での生活への順応と定住への基盤づくり

活動拠点
①厚岸町産品の価値・魅力の掘り起こしとPR
②キノコ産業の育成・振興と上尾幌地域の活性化
③子野日公園や町内の桜・ヒオウギアヤメの保護育成

厚岸町
①町政の課題対応、産業・経済団体などへの支援
②町民が増えることによる人口減少対策



田下（たしも） 昭宏（あきひろ） さん

出身：神奈川県海老名市（平成29年10月委嘱）
活動拠点：厚岸町きのこ菌床センター

しいたけ栽培に関する活動のほか、地域の人達との交流を大事にし、自治会や消防団での活動や行事に積極的に参加した。また、今後は『食育』活動も行っていきたい。

厚岸町のしいたけ生産者は減少しており、離農予定者と継承者にお互いにメリットがある『第三者経営継承』で地域を守っていくことができると考えている。

町へのお願いとして、しいたけ栽培の新規就農者に対する支援をお願いしたい。



金子（かねこ） 勇（いさむ） さん

出身：北海道札幌市（平成29年９月委嘱）
活動拠点：厚岸町きのこ菌床センター

協力隊の任期終了後にしいたけ生産者になるという目標を達成するために活動をしてきた。着業に向けさまざまな課題があったが、周囲の協力により目標を達成できる状況になった。

しいたけ栽培を始めるまでにかかる初期費用については、離農者の元牛舎を改造したり、資材を再利用することで概算の10分の１以下に抑えることができた。

一人で経営できる生産スタイルを目指し、将来的には、収穫体験や民泊経営も視野にいれている。



神田（かんだ） 潤一（じゅんいち） さん

出身：北海道斜里町（令和元年８月委嘱）
活動拠点：厚岸町きのこ菌床センター

任期終了後にはしいたけ生産者としての起業を目標に活動を行っている。

きのこ菌床センターでの菌床作成、道内の栽培施設の見学。道外の出張研修では、独自の栽培方法『釣棒栽培』を行っている施設を見学したり、生産者の指導のもと、しいたけ栽培に関する知識を習得した。

自然豊かで景観がきれいな厚岸町。家族４人で厚岸町のさまざまなイベントに参加し、その様子をＳＮＳで投稿している。



百海（どうかい） 琢司（たくじ） さん

出身：愛知県名古屋市（平成31年４月委嘱）
活動拠点：厚岸町観光商工課（子野日公園）

地域おこし協力隊として、子野日公園や町内の桜・ヒオウギアヤメの保護育成、『厚岸町桜の町並み再生プラン』の策定とその活動、厚岸町の魅力の情報発信をしていくことなどが課題として与えられた。

１年目の活動として、子野日公園や町内の桜の位置を調査してマップを作成し、生育状況や保護育成作業の時期などを把握することができた。また、観光商工課のさまざまなイベントに参加した。



伊藤（いとう） 昌広（まさひろ） さん

出身：東京都板橋区（平成29年８月委嘱）
活動拠点：厚岸漁業協同組合直売店

３年目の活動として、『お客様とのコミュニケーション』『ポップ等による見栄えの充実』に重点をおいた。

観光で厚岸町を訪れるお客様は新しい刺激や出会いを楽しみにしており、親身になって１対１で接客することで厚岸町の印象を強く残し、より好きになってもらえると思う。

直売店のスタッフと話しをしながら、ぱっと見て分かるポップやレシピポップを作り、わからないことを伝えられるように工夫した。



岡田（おかだ） 拓也（たくや） さん

出身：滋賀県湖南市（平成29年10月委嘱）
活動拠点：厚岸漁業協同組合直売店

協力隊の活動も3年目となり、『情報の発信』に取り組んできた。

厚岸漁業協同組合直売店の店内用に厚岸ブランド牡蠣の違いがわかるポスターを作成し、また、ポスターのQRコードを読み込むと、海外から来られたお客様でもわかるように英語表記もあるＷＥＢページを作成した。

今後は、直売店に来られない、知らないお客様に対してもインスタグラムやライン機能を活かし、写真を使って簡潔な内容で情報発信をしていきたい。



『厚岸音頭』の原譜とレコードを町民ホールに展示

令和元年９月20日に根室市在住の大地みらい信用金庫前理事長の北村信人さんと妻の享子さんが厚岸町役場を訪れ、『厚岸音頭』と『幸せにかける橋』の直筆の楽譜と歌詞が町に寄贈されました。



この曲は、根室市出身の作曲家である飯田三郎氏（1912年～2003年）が作曲されたものです。今回町に寄贈された原譜は、飯田氏と生前から親交のあった北村さんが2001年に譲り受け、長年大切に保管されていたもので、「厚岸音頭にゆかりのある厚岸の皆さんに見てもらえれば」と話してくれました。

厚岸音頭の歌詞に出てくる厚岸大橋は、北海道で最初の海上橋として昭和47年９月に開通しました。『厚岸音頭』と『幸せにかける橋』は厚岸大橋の完成を祝って作られました。

『厚岸音頭』 作詞（合作） 勝又木雨風、飯田三郎
作曲・編曲 飯田三郎
唄 三橋美智也、早坂光枝

『幸せにかける橋』 作詞 横井弘
作曲・編曲 飯田三郎
唄 倍賞千恵子

昭和47年８月号の広報あっけしでは、「厚岸大橋完成記念事業のひとつとして進められてきた『厚岸音頭』と『幸せにかける橋』がこのほど作曲され、厚岸の情緒と風物が多大に吹き込まれている。これらの歌は、町観光協会と大橋完成記念祝賀行事事業協賛会が中心になって製作したもので、昭和47年７月15日に試（視）聴会を開き、参集した人の好評を受けていました。『厚岸音頭』は飯田氏と三喜八千代さんが振り付けしており、関係者は大橋完成祝賀パレードに踊りが間に合うようにと、日程を組んで各地区をまわることにしています」と書かれています。昭和47年10月号の表紙では、厚岸大橋の上で厚岸音頭を踊っている町民の皆さんの姿が写されています。



平成22年の厚岸音頭市中パレードでは、厚岸・真龍小学校５・６年生と厚岸・真龍中学校の生徒と教員480人が町制施行110周年記念隊列と初参加し、現在の厚岸音頭市中大パレードへと繋がっています。



厚岸の歴史と文化を伝える貴重な資料として、北村さんから寄贈いただいた『厚岸音頭』と『幸せにかける橋』の原譜を複製したものとレコードを役場１階町民ホールに展示していますので、来庁された際には是非ご覧ください。



●問い合わせ／総務係

北海道横断自動車道根室線『尾幌糸魚沢道路』

新規事業化後の現状についてお知らせします

●問い合わせ／政策調整係

令和元年度国土交通省予算において厚岸町尾幌糸魚沢間24.7kmが北海道横断自動車道根室線の一部を構成する一般国道の自動車専用道路として新規事業化が決定しました。総事業費は約650億円とされています。

令和元年８月には、事業化決定区間の概略ルート幅約250mの土地所有者と沿線自治会を対象に、釧路開発建設部と厚岸町による計画説明会を開催しました。説明会では、測量などの現地調査を行うための所有地への立ち入りの承諾を求めました。

令和元年度の国土交通省予算は１億円で、厚岸ＩＣ（仮称）（インターチェンジ）予定地と門静間約4.5kmの測量などの現地調査及び道路設計を行っています。

測量及び道路設計により、概略ルート幅内に中心線を定め、整備幅は一般的な盛土部で概ね50mから60m程度となる見込みです。

厚岸ＩＣ（仮称）は、光栄地区と太田市街地を結ぶ「道道厚岸標茶線」に接続する位置を予定しています。

次年度以降に順次、ほかの区間の測量などの現地調査及び道路設計を完了させ、道路用地幅を決定します。この後に用地を取得し、工事整備を進めます。

今後の事業費や事業計画は毎年度の国土交通省予算額によるため、明示されていない状況です。

厚岸町としては関連団体と連携し、尾幌糸魚沢道路の『早期着工』を求め、国土交通省や財務省などに要望活動を行っています。

【要望活動】
令和元年７月
・釧路地方総合開発促進期成会
・釧根トライアングル整備構想連絡会議
令和元年10月
・北海道高速道路建設促進期成会
令和元年11月
・北海道横断自動車道釧路・根室間建設促進期成会
・北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会

一般国道44号（北海道横断自動車道 根室線）尾幌糸魚沢道路



※ルートは概ねの位置を示したものであり、今後の現地調査により変更する場合があります。

あっけし ZOOM UP

イベントや活動など、まちのニュースをお届けします



か 地元食材を使ったふるさと給食
き飯と三平汁を食べたよ

２月10日、町内の小中学校で厚岸の地元食材を使ったふるさと給食約750食が提供されました。この日のメニューは、かき飯とタラを使った三平汁、鶏肉のマーマレード焼きとおかかあえの４品。給食の献立表には「かきは海のミルクと言われるくらい栄養がいっぱいです」とひとことが添えられていて、スケート授業から帰ってきたばかりの真龍小学校１年雪組のクラスでは、「いただきます」のあいさつとともに温かい給食をおいしそうに味わっていました。

中にはかき飯をおかわりする児童もいて、おなかいっぱい食べました。

人 地域支えあい研修会
と人が結びつくことが大切

２月11日、厚岸町社会福祉協議会主催の地域支えあい研修会が厚岸情報館で開催されました。講師には北星学園大学社会福祉学部の岡田直人教授を迎え、町内外から92人が参加しました。

道外の町内会の取り組みを例にあげながら、『地域づくり』は、地域社会と命を守る保険であり、地域の支えあい活動は認知症予防と長生きにつながると説明。参加者は講師の巧みな話術で時には笑いながら、話に聞き入っていました。





や ガイアナイト2020inあっけし
わらかな光の中で地球環境に思いをめぐらす

１月24日、海事記念館においてガイアナイト2020inあっけしが開催されました。このガイアナイトは平成20年に開催された北海道洞爺湖サミットを契機として、キャンドルのやわらかな光の中で静かに地球環境に思いをめぐらすことを目的とし、厚岸町では初めての開催となりました。

アイスキャンドル点灯式のあと、プラネタリウム室においてほしぞら朗読会を行い、最後に屋外へ移動し、天体望遠鏡で冬の星座を観察しました。



毎日の食生活に気をつけることが大切

ヘルシー教室

１月28日、保健福祉総合センターにおいてコレステロールを下げる食事をテーマにヘルシー教室が行われました。

はじめに町の保健師から脂質異常症に関する講話があり、不飽和脂肪酸（固まらない油）と飽和脂肪酸（固まる油）について学び、その後調理実習を行いました。メニューはごはん、じゃが汁、チキンのピリ辛おろしソースかけ、野菜のかみかみ和え、バナナピザで、参加者は手際よく調理を行い、その後試食をしました。

スケートの基礎を教わりました

親子スケート教室

１月25日、幼児から小学校低学年を対象にした親子スケート教室が宮園公園スケートリンク場で行われ、子どもと保護者５人が参加しました。

子どもたちは、講師の中澤さんからスケート靴の履き方や歩き方など、スケートの基本的な滑り方を教わりました。中には初めて滑る子もいて、椅子を使って滑る練習などでコツを身につけようと一生懸命滑っていました。自分ひとりで滑れるようになると、うれしそうに笑顔を浮かべていました。





アナジャコを美味しく食べて一石二鳥

厚岸翔洋高等学校水産クラブ出前授業

２月10日、真龍中学校体育館において厚岸翔洋高等学校水産クラブ出前授業が行われ、真龍中学校１・２年生、厚岸中学校、太田中学校の生徒が参加しました。

厚岸翔洋高等学校海洋資源科調理師コース３年生の藤田淳奈さんと近藤駿斗さんが、あさり島に生息するアナジャコの有効利用の取り組みについて発表しました。発表後は、中学生からアナジャコの生態や調理に関する質問が相次ぎ、藤田さんが丁寧に質問に答え、お互いに交流を深めました。

いろんな遊具でたくさん遊んだよ

みんなのあそびば

２月15日と16日の２日間、厚岸町みんなのマルシェ実行委員会主催の『みんなのあそびば』が社会福祉センターで行われ、２日間で町内外から約1,600人の親子連れが訪れました。

ホール内には、ジャングルジムや滑り台などを組み合わせた木製大型遊具や、反発力の強いエアトラック、柔らかい大型ブロック、三輪車、ボールプールなど、たくさんの遊具が設置され、さまざまなブースで子ども達は時間を忘れ、思いっきり元気に遊んでいました。



この人に懸ける

わが家のホープ

このコーナーでは、毎月あみか21で行っている7カ月児のあかちゃん相談に参加したお子さんを紹介しています。



尾崎　莉緒（りお）ちゃん

お父さん：雄大さん
お母さん：理絵さん
住まい：湾月



平野　友翔（ゆうと）ちゃん

お父さん：将克さん
お母さん：美香子さん
住まい：若竹



笹原　凰雅（こうが）ちゃん

お父さん：有斗さん
お母さん：郁乃さん
住まい：奔渡



福西　暁雅（きょうが）ちゃん

お父さん：哲也さん
お母さん：柚香さん
住まい：門静



災害発生時の新たな希望
釧路東部消防組合ドローン運用開始式

1月24日㈮、厚岸消防庁舎車庫にて、釧路東部消防組合ドローン運用開始式が開催されました。

釧路東部消防組合では、昨年7月にドローン1機を購入し、操縦者の養成を進めており、今回9人をドローン操縦者として指名し、運用を開始しました。

開始式にあたり、管理者である若狭町長から「私たちの住んでいる地域は、皆さんもご存じのとおり、地震・津波の発生が危惧されている地域で、巨大な地震が発生すると、激しい揺れと大津波に見舞われ、甚大な被害が見込まれる。このような地震・津波災害に対しては、迅速にして的確な被害状況の把握が重要であり、ここにいる操縦者の活躍により、多くの命を守ることが出来ると考えている」と操縦者に対する期待を述べました。

操作訓練では、操縦者がドローンを操縦し、厚岸消防庁舎駐車場の上空から、役場庁舎などの様子を空撮で確認しました。

●問い合わせ／厚岸消防署予防広報係☎52－5111



▲モニターで空撮している映像を確認



▲飛行するドローン

地域おこし協力隊通信

かみおぼろのおはなし

担当:田下（たしも）隊員



▲今回のイベントを盛り上げてくれた芸人さんが描いてくれたイラスト

厚岸町地域おこし協力隊facebookページも見てね！
https://www.facebook.com/akkeshi.chiikiokosi/

みなさんこんにちは！上尾幌の田下です。今回は2月14日(金)から16日(日)の3日間、札幌で開催した『第12回厚岸味覚まつり』in サッポロファクトリーの報告です。

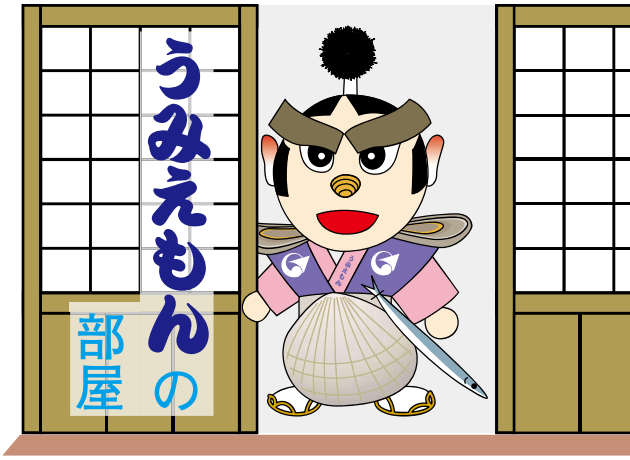
今年は新型コロナウイルスの影響もあり各地でイベントが中止、また縮小される中、主催者である厚岸漁業協同組合直売店では、販売員のマスク着用、お客様のアルコール消毒を徹底し、こんな時こそ、札幌の人に厚岸の美味しいものをたくさん食べていただき、元気になってもらおうと開催を決行しました。

厚岸一番の魅力である牡蠣をはじめ、あさり、毛ガニ、加工品などを目当てに長い列が出来て、両手いっぱいにたくさんお買い上げいただけました。

私はこのイベントに3年連続で上尾幌しいたけのPR、販売に参加していますが、毎年しいたけを楽しみにしてくれるお客様もいて、自分が採ったしいたけを店頭でお客様に勧めたり、お客様から美味しかったよ、などお褒めの言葉をいただいたりと貴重な経験だと思います。また、お客様からは『厚岸ウイスキー』の問い合わせも多く来年のイベントでは店頭に並べば良いなと思いました。

▼イベントの様子





今年度も残すところわずか1ヶ月でござるね！　この1年たくさんの良い思い出を作ることができたでござるな～♪

桜・牡蠣まつりや牡蠣まつりを始めとした町内イベントに加え、札幌市や山形県村山市などのイベントにも参加したでござるよ！　たくさんの人が話しかけてくれて、とても嬉しかったでござる☆　拙者を見かけたらぜひ「うみえもん！」と呼んでほしいでござるな！　一つ一つが良い思い出でござるよ～♪

入学式や成人式にも参加したでござるよ！小学生になることに緊張していた子どもたちや、成人になり立派になったみんなの姿を見られて感動したでござるなぁ～

ほかにも、色々な場所にお邪魔したでござる！　特に保育所や幼稚園にはたくさん行ったでござるな☆　みんなとっても元気いっぱいで、おかげで拙者もたくさん元気をもらったでござるよ！









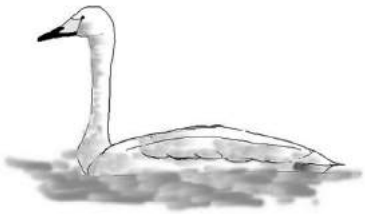


今年度もほんとにたくさんの人にお世話になったでござる！　来年度も一生懸命頑張るでござるから、よろしくでござるな☆

厚岸水鳥観察館だより

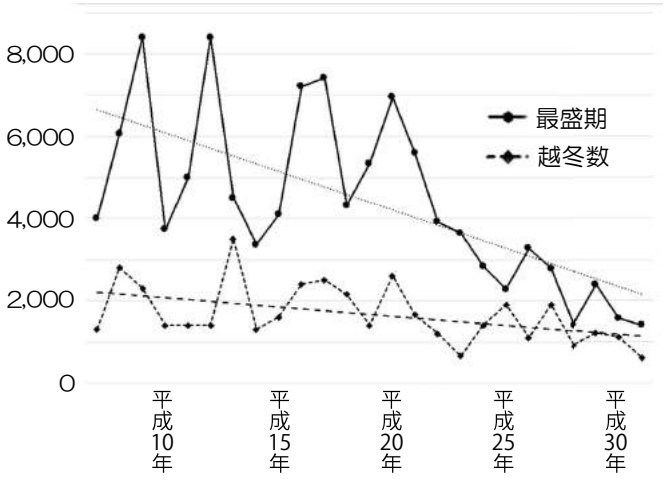
別寒辺牛（べかんべうし）

●問い合わせ／水鳥観察館☎52-5988



厚岸湖・別寒辺牛川水系のオオハクチョウ

厚岸湖・別寒辺牛川水系には、毎冬オオハクチョウが飛来し、その多くが越冬します。しかし、水鳥観察館が開館した平成7年からのオオハクチョウのシーズン飛来数は、平成20年度（平成20年～平成21年冬）を最後に、一つのピークの目安であった6,000羽を越えることがなくなりました。それ以降はピークの飛来数は減る一方です。越冬数も同様の経緯をたどっています。



今季も例年並みの10月10日にオオハクチョウの初飛来を迎えました。10月末には1,000羽を越えましたが、11月に入ってからは約1,300羽で、これがこの冬の最大飛来数になってしまいました。では、オオハクチョウはどこに行ったのでしょう?

北海道には2本の大きな渡りのルートがあります。一つは“道央ルート”。もう一つが“道東ルート”で、厚岸町や風蓮湖（根室市・別海町）などはこちらに入ります。その入り口であるオホーツクの湖沼群にはそれなりの数が入っています。でもそれらのオオハクチョウが十分な水草もあり環境的には何の問題もない厚岸湖に来なくなっています。

さて、明治時代に入ってから北海道でとうもろこし栽培が盛んに行われるようになり、現代に至るまで作付けの増減を繰り返し、青刈りとうもろこし（飼料用）として平成19年頃から再び増加。厚岸湖のオオハクチョウの減少時期は、おおよそデントコーン作付面積の再増加と符合しますし、左のグラフともおおよそ合致します。

つまり、道東のオオハクチョウについては、デントコーンへの餌場のシフトが始まっているのです。一般的には“農耕地シフト”といい、イギリスでは1960年代から起こっている出来事で、他のヨーロッパ諸国でも、ある時期から農地で採食する習性に変化しています。北海道でも地域による差が大きいのですが、平均すると農地依存が顕著です。

厚岸町でのデントコーンの作付けも増えているのですが、実はオオハクチョウはそれほど入っておらず、むしろタンチョウの方が目立ちます。

十勝川河口エリアでオオハクチョウ、ガン類の異常集中が見られますが、ほとんどデントコーンによるもので、長沼町などでもかなり集まっています。これらの気になるエリアは、紋別市から斜里町までの海岸線内陸側、釧路湿原周辺、十勝川下流エリアなどで、雪が降ると採食不能になるため越冬はできません。その後は、東北方面に南下してしまいます。



オオハクチョウについては、湖沼のアマモよりも畑のデントコーン（東北では稲の落ち穂）が流行の最先端といったところなのでしょう。そのまま越冬期に入っても、既に南下してしまった群れは厚岸湖に戻ってくることはありませんので、越冬数も減少傾向が強いと考えられるのです。